境（山本）千鶴子先生に感謝

山下内科医院院長
山下えり子（53回）



「山本先生、私、東高に行きたいんです。」

昭和51年の晩春、静岡Ｆ学園中学校の階段を降りながら、中３北組担任の山本先生に告げました。山本先生は東高卒業生の英語の教師でした。「わかりました。」というお言葉に、否定されるであろうと思っていた私は驚きました。

小学生時代に近くの中学校で行なわれた東高のサッカーの試合を偶然観て魅了されました。中学１年生の秋に千南祭に行き、東高で高校時代を過ごしたいと思いました。両親には医学部に進学し父の後を継ぎ内科医になる事を約束し、東高に進学出来ないのなら、５階の教室のベランダから飛び降りると話しました。

昭和52年４月私は晴れて東高に入学出来ました。学級担任の杉山悦郎先生は山本先生の東高時代の同級生だったそうです。両親とはサッカー部のマネージャーは厳禁という約束で、その代わり写真部に入りサッカーの写真ばかり撮っていました。中学３年生で既に数Ⅰの授業を受けていたので、入学当初は辻先生の数学の授業も楽勝でした。

しかし、楽しいばかりで過ごしいたらあっという間に成績が落ちました。北里大学医学部に入学し、真っ先にサッカー部の部室に行きマネージャーを志望したら、藤枝東出身者に見られると恥ずかしいと言われました。サッカー部のＯＢには外科で清水東出身、現在静岡県サッカー協会上層部の渡辺善明先生がいらっしゃいました。医師国家試験を経て医師になり、大学病院勤務後、平成７―10年藤枝市立総合病院内科に勤務しました。その際に、渡辺先生の勧めでＪリーグドーピングドクターを行なう事が出来ました。

平成10年３月に藤枝市立総合病院を辞職し、６―９月にイギリスでホームステイしながらアロマセラピーの研修を行ないました。同年10月父の跡を継ぎ、山下内科医院院長になりました。平成13年６月には実家近くのマンション１階に医院を移転しました。新しい医院の設計は、これまた山本先生にお世話になった一級建築士である姉の路子が担当しました。現在７名の職員を雇用し内科医院を開業しています。

日々進む医学の知識を得ながら、医院を経営していく事には大変な事もありますが、そこで思い出すのは母の言葉です。「あんたが東高に行くために、山本先生をはじめ、周りの大人がいかに苦労したをかわかっているよね。」

境（山本）千鶴子先生、ありがとうございます。大人になり、改めて感謝申し上げます。